

BLUE SOCKS 2020

## 特集



誰もが日本一を目指した！ブルーソックスの原点、発足当時のイズムを  
21年前に実行したカナダ遠征から色褪せない今を振り返る。

BATTLE in CANADA より 1998.10

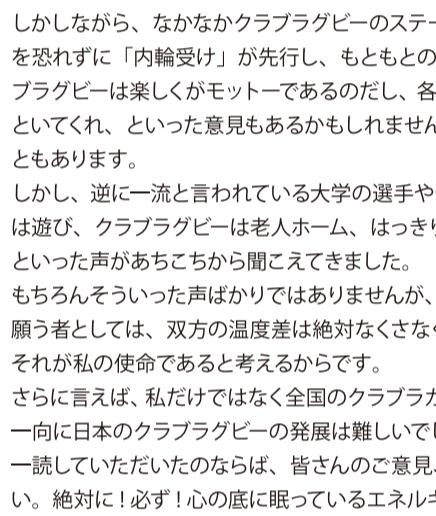
## カナダ遠征



BLUE SOCKS  
1998  
主将

伊藤浩二

私は中学、高校とラグビーをやってきました。高校時代はラグビーの名門日川高校でラグビーをし、毎日毎日、厳しい練習をしてきました。それは全国制覇という大きな目標があつたからこそ、厳しい練習にも耐えてこられたのだと思います。しかし、何度も辞めたいと思ったことがあります。でも、ここでやめたら一生後悔するだろうと思い、仲間とともに3年間がんばりました。私たちが3年の時は、全国ベスト8で敗れ、結局夢は叶いませんでした。しかし、全力で挑んだ末の結果です。悔いが残らなかつたと自信を持って言えます。そして、大学進学。完全燃焼の反動か大学ではラグビーをしないつもりだったのです。しかし、1年の終わり頃、高校時代、日川高校で共に頑張った親友の深山（ブルーソックス不動のフッカー）がクラブチームでプレイしていると聞いたとき、自分の中に隠れていたエネルギーが再燃しました。そして、練習初日。私は「クラブチーム」だからという心構えが多少あったのですがそれは間違いでした。ブルーソックスのみんなは真剣でした。日本一という目標に向かって。日川高校、いやそれ以上に。私は高校時代に全国制覇という忘れ物しています。このブルーソックスのメンバーと一緒に取り返したいです！そして日本一になりたいです！私は夢を追い続ければ必ず日本一になるなる、そう信じています。だから、これからもブルーソックスでがんばっていきたいと思います。



2020年9月某日。亀龍監督が突然懐かしいあるものを部員に見せるために持参してくれた・・・。

それは、1998年10月に敢行したカナダ遠征の盾であった。ブルーソックスが発足した当時から在籍している私には、それを見た瞬間21年前の熱いチームの記憶が蘇った。果たして亀龍監督は何を想い、部員にそれを見せたのだろうか？全てはこの記事の中にあった。

それは当時カナダ遠征に同行してもらった雑誌の編集長・中島氏が、我々のチームのイズムに共感し、カナダ遠征に同行してもらい実際の記事として掲載した「ラグビーワールド」の掲載記事に全てが掲載されていた。

ラグビーワールド 1998 WINTER 号より

※全てを掲載するには文章量が多いので隔週で3回に分けて当ホームページより掲載します。

ラグビーワールド

1998 WINTER 号 ¥980

1999年発行書籍「ラグビーワールド」

1999年発行書籍「ラグビーワールド」